

健診の指標



大腸癌健診結果

<大腸癌と便潜血検査 ～捨てるうんこで拾う命～>

大腸癌検査としてもっとも普及しているのが、便潜血検査です。当院でも健康友の会の患者様を中心に「捨てるうんこで拾う命」を合言葉に大腸がん健診（便潜血検査）を勧めてまいりました。



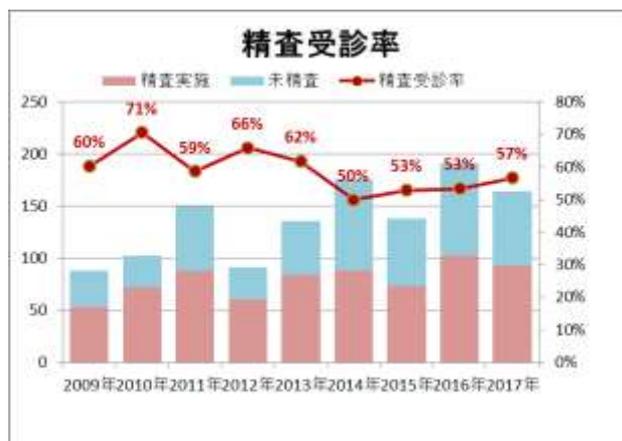
便潜血検査は便を専用の棒でこすって採取し、血液が混じっているかどうかを調べる検査で、目に見えないわずかな出血も発見することができます。この検査にて2回の採取便の内1回でも血液が混じっていたら、内視鏡による検査が必要です。

大腸がんは、早期の癌はほとんど自覚症状がなく、大きく進行した後でないと自覚症状がありません。この為、手遅れになるケースが多々あります。大腸癌を早期に発見する為に、定期的な便潜血検査を受けましょう。

<便潜血検査で陽性がでたら、必ず内視鏡検査を！>

当院で便潜血検査にて陽性となった方の内、内視鏡検査を実施した方は2015年度以降微増傾向にあり、2017年度は57%でした。

精密検査を行わなかった患者さんは、大腸憩室炎や痔等の出血性の症病を持っており、主治医が検査不要と判断した患者さんがほとんどです。



<大腸 CT 導入でより気軽に精査実施を>

当院では2017年末に大腸 CT を導入し、12月から大腸 CT にて精密検査を実施された患者がいらっしゃいました。2017年度院内精密検査実施患者88名中19名の方が大腸 CT を利用されています。

大腸 CT の導入により、これまで内視鏡検査の実施を拒まれていた患者様もお気軽に検査を実施して頂けるようになり、精査実施率の上昇につながりました。

<精査結果>

諸統計データでは、便潜血で精密検査が必要とされる人は約6%（当院では15%）、うち内視鏡で癌が発見される方は約4%（当院4%）です。便潜血検査にて陽性となった患者さんから見つかる大腸癌はその多くが早期癌です。早期癌の段階で治療ができれば完治が期待できます。

また進行癌でも、症状が無く便潜血検査がきっかけで見つかった場合は、自覚症状が出てからみつかった場合に比べて他の臓器への転移が少ないとの報告もあります。便潜血が陽性になっても、精査を受けなければ、大腸癌の有無を確認することはできません。早期発見・治療の為に、便潜血検査で陽性反応が出た場合には、必ず内視鏡検査・大腸 CT を受けましょう。

